



東洋炭素株式会社

2020年12月期第2四半期 決算説明資料

2020年8月

東洋炭素株式会社

2020年12月期第2四半期 決算概要

1. 2020年12月期第2四半期業績

✓ 新型コロナウイルス感染症の影響で、売上利益とも大幅ダウン

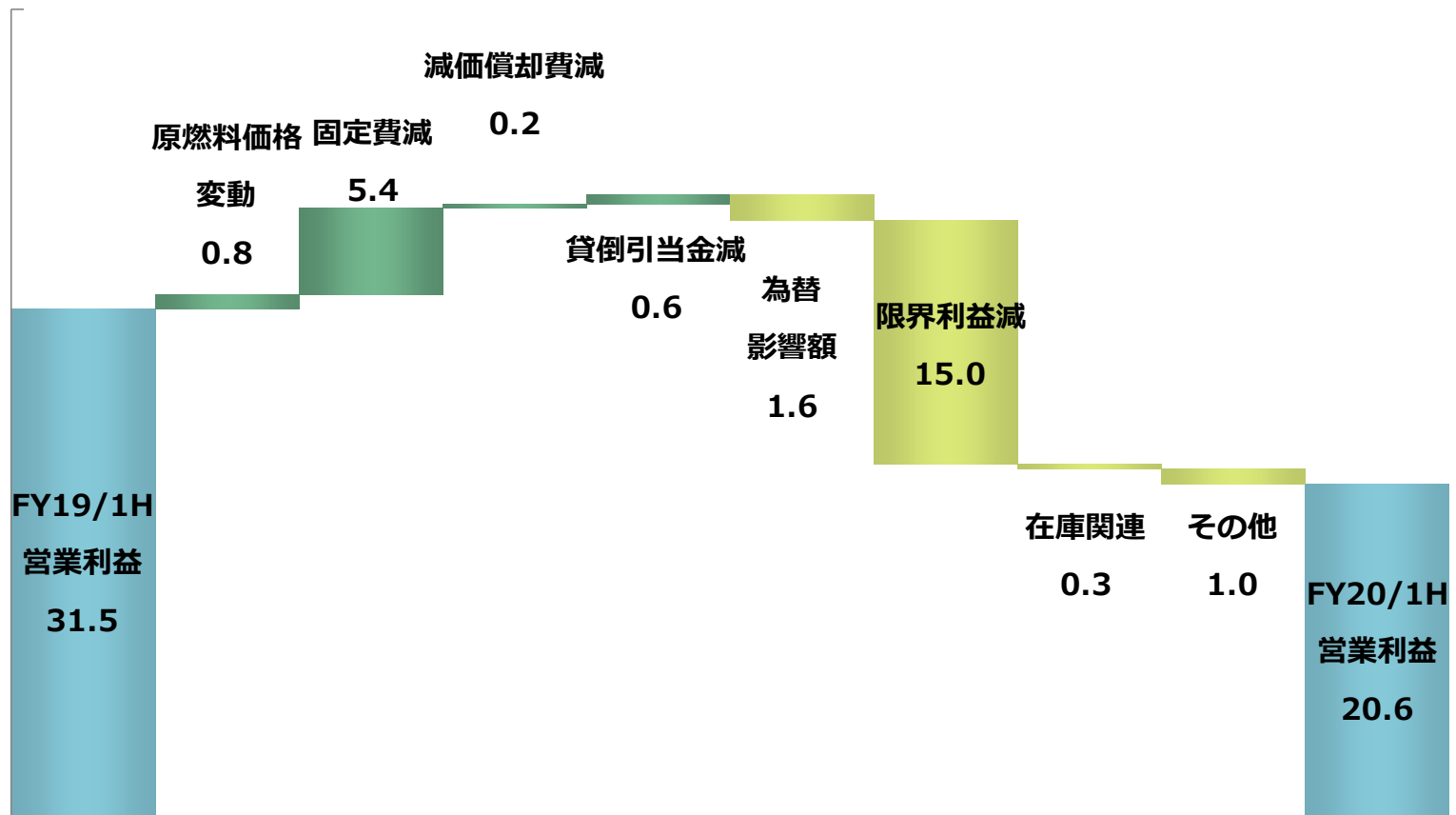
(単位：百万円)	FY19	FY20	前年同期比
	1 H	1 H	
売上高	19,141	15,514	▲ 3,627 / ▲ 19.0 %
営業利益	3,158	2,063	▲ 1,094 / ▲ 34.7 %
(売上高営業利益率)	16.5%	13.3%	
経常利益	3,066	2,105	▲ 960 / ▲ 31.3 %
(売上高経常利益率)	16.0%	13.6%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,303	1,461	▲ 841 / ▲ 36.5 %
1株当たり四半期純利益	109円83銭	69円69銭	
為替レート	110.1円/\$ 124.3円/€ 16.2円/人民元	108.3円/\$ 119.3円/€ 15.4円/人民元	

2. 営業利益増減要因

(2019年12月期第2四半期 vs 2020年12月期第2四半期)

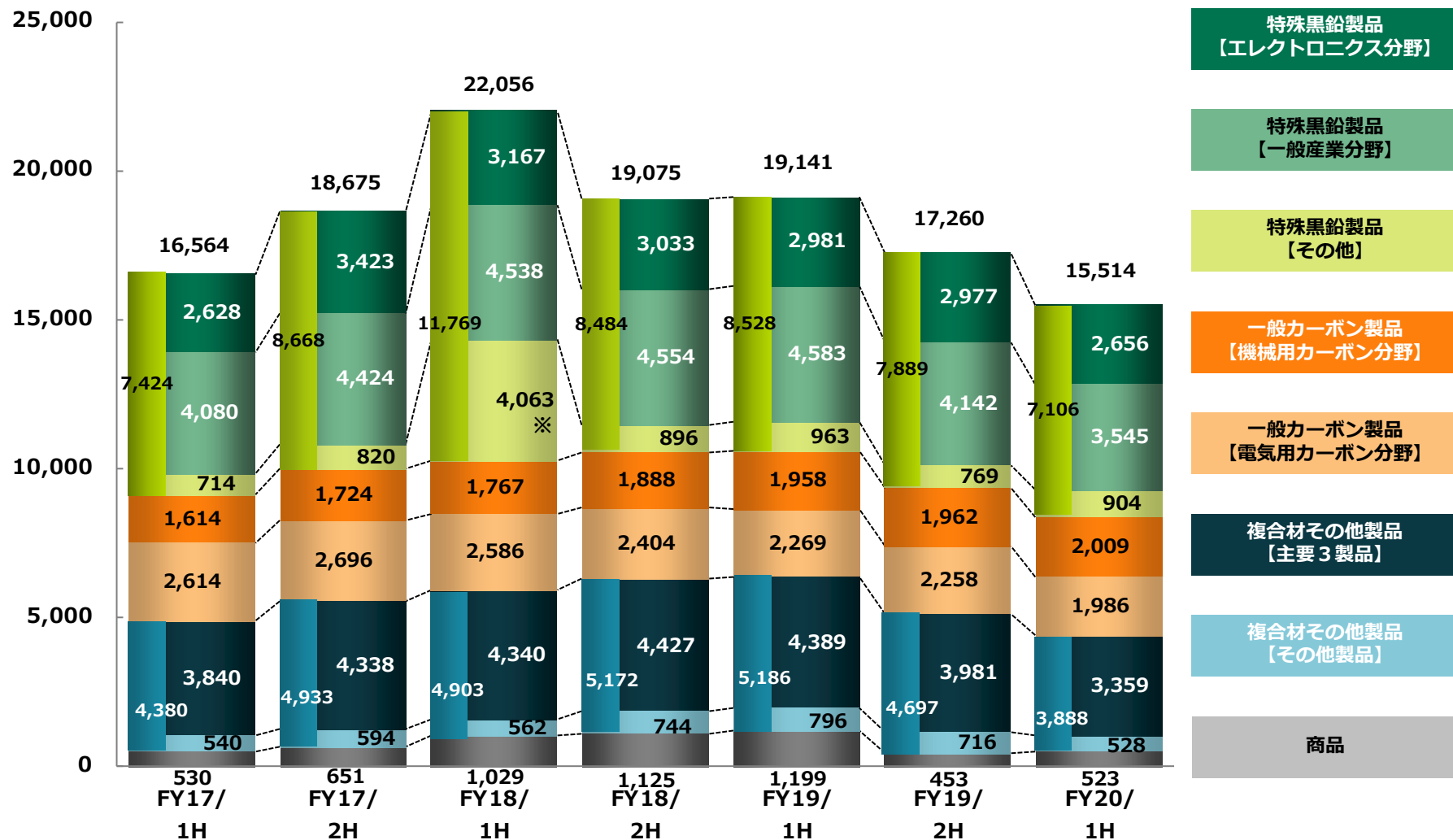
✓ 人件費等の固定費は減少するも、売上減少による限界利益大幅ダウンで
前年同期比▲34.7%の減益

(単位：億円)



3. 製品・分野別売上高

(単位：百万円)

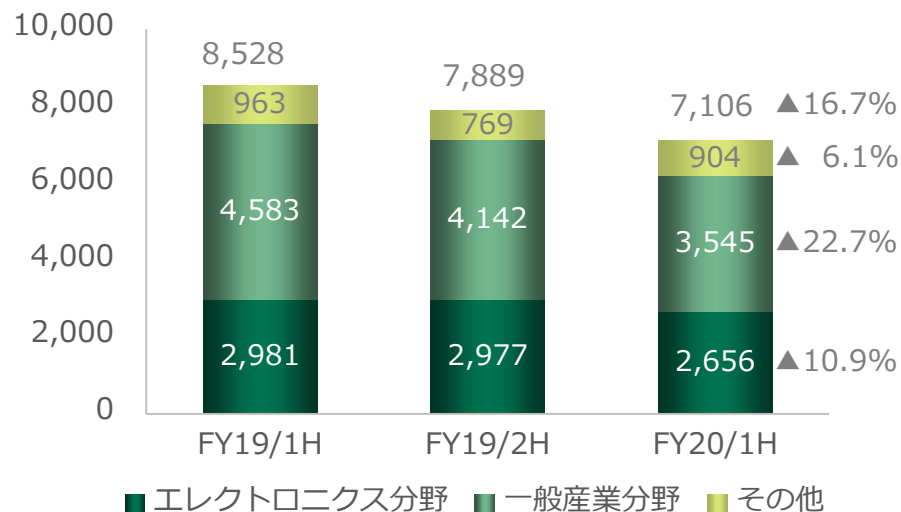


※FY18/1Hの特殊黒鉛製品 その他の売上高には、中国高温ガス炉（HTR-PM）向けの売上高3,204百万円が含まれております。

3. 製品・分野別売上高のポイント①

<特殊黒鉛製品>

(単位：百万円)



ポイント

【エレクトロニクス分野】

単結晶シリコン製造用は、今期に入り調整トーン鮮明に。当初、年後半での回復を見込むも、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、立ち上がりは遅れる見込み。太陽電池製造用は、ウエハ価格下落にともなう部材への価格転嫁が顕在化。収益性を優先し受注を選別。

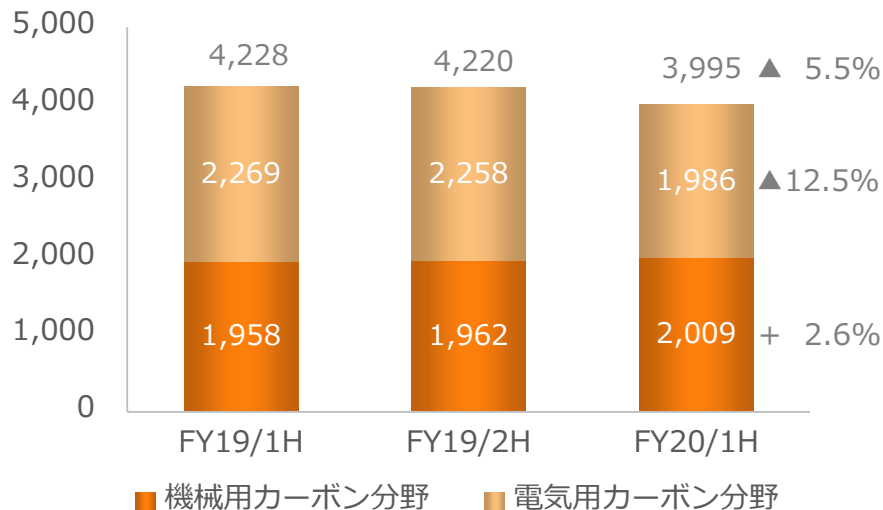
【一般産業分野】

自動車・航空機用途がメインの放電加工電極用・工業炉用は、コロナの影響大。連続鑄造用や中国の光ファイバー用も苦戦。

3. 製品・分野別売上高のポイント②

<一般カーボン製品>

(単位：百万円)



ポイント

【機械用カーボン分野】

国内の軸受・シールリングなどの主力製品が全般的に堅調に推移。パンタグラフ用すり板も、海外案件の受注が寄与し順調な滑り出しで、環境悪いなか唯一前年同期比プラスで着地。

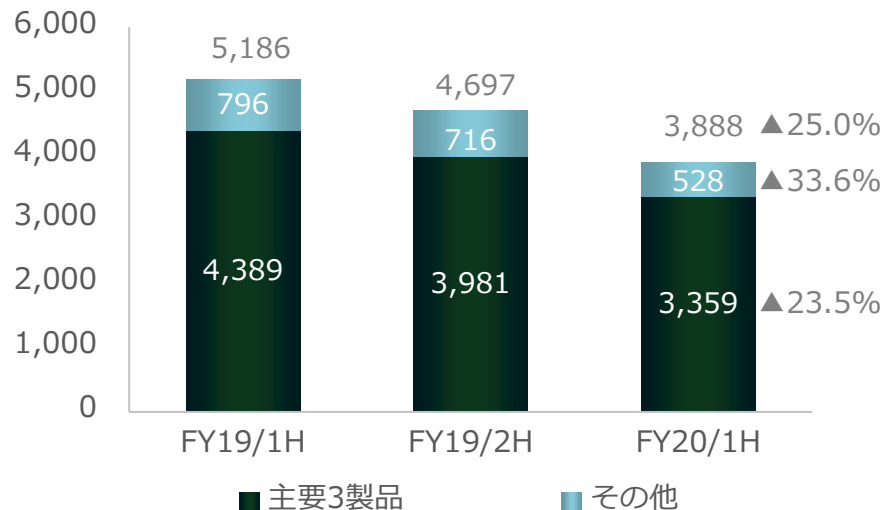
【電気用カーボン分野】

小型モーター用は、家電用（掃除機・洗濯機）のブラシレス化により引き続き低迷。電動工具用は比較的堅調。中国ローカルメーカーをはじめとする安価品との競合に向けた対応策として、さらなるコストダウンや価格見直しによる収益改善、また顧客需要に対応した製販拠点の強化など、各種施策を講じてシェアの維持・拡大に注力。

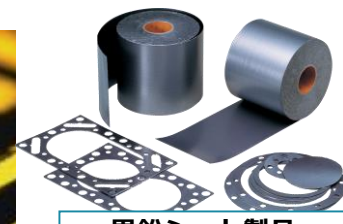
3. 製品・分野別売上高のポイント③

<複合材その他製品>

(単位：百万円)



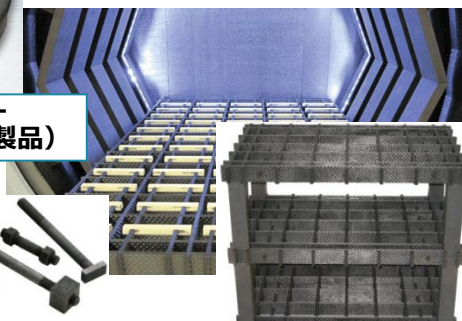
MOCVDサセプター
(SiCコーティング黒鉛製品)



黒鉛シート製品



ボルト・ナット
(C/Cコンポジット製品)



三段トレイ
(C/Cコンポジット製品)

ポイント

【主要3製品】

SiCコーティング黒鉛製品は、半導体用が堅調も、LED用が低迷し大幅減。中長期的には、パワーデバイス向けやLED用などの伸びを見込む。増強施設が年内完成予定で、来期より顧客の認定取得を開始し、段階的に稼働予定。

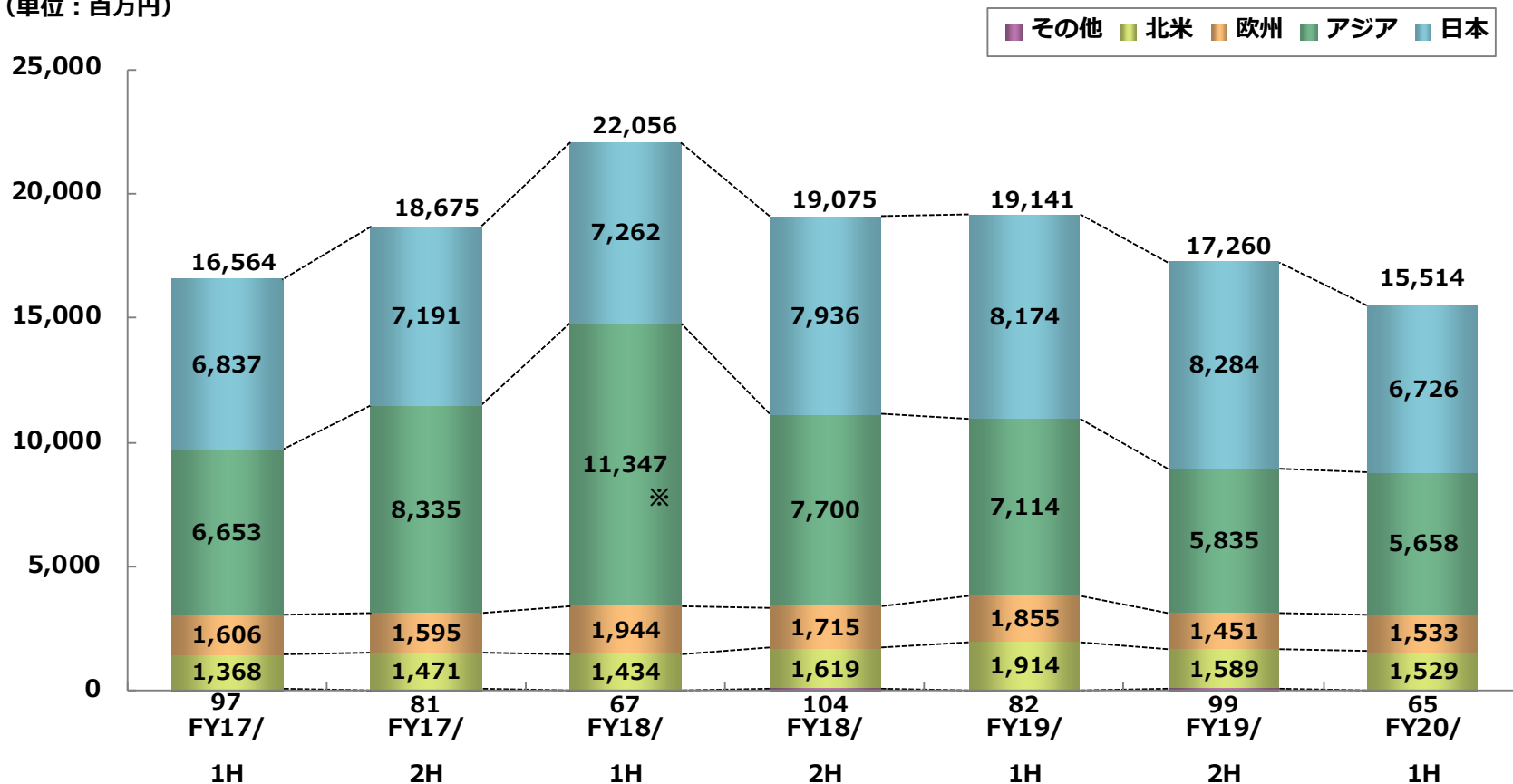
C/Cコンポジット製品は、半導体用・工業炉用ともに低調。太陽電池用は単結晶シリコンが主流となり、多結晶シリコン製造用のC/Cコンポジット製品は使用激減。

黒鉛シート製品は、自動車用をはじめ、冶金用・エレクトロニクス用とも総じて低迷。

4. 地域別売上高

✓前年同期比では各地域軒並み2割程度のダウン

(単位：百万円)



※ FY18/1Hのアジアの売上高には、中国高温ガス炉（HTR-PM）向けの売上高3,204百万円が含まれております。

5. 連結貸借対照表および連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表	(単位：百万円)			連結キャッシュ・フロー 計算書	(単位：百万円)	
	19/6月末	19/12月末	20/6月末		FY19/1H	FY20/1H
資産合計	74,397	76,082	74,847	現金及び現金同等物 の四半期末残高	7,186	10,474
受取手形及び売掛金	13,797	14,195	11,666	現金及び現金同等物 の増減額	771	4,373
たな卸資産	15,100	15,416	15,769	現金及び現金同等物 の期首残高	6,414	6,101
有形固定資産	23,993	24,874	26,369	営業活動によるCF	3,233	3,785
負債・純資産合計	74,397	76,082	74,847	投資活動によるCF	▲ 1,219	1,778
有利子負債	491	296	298	財務活動によるCF	▲ 1,148	▲ 1,116
資本金	7,947	7,947	7,947			
純資産	64,877	65,706	65,712			
自己資本比率	86.3%	85.4%	86.8%			

※現預金および有価証券残高：17,226百万円

2020年12月期業績予想

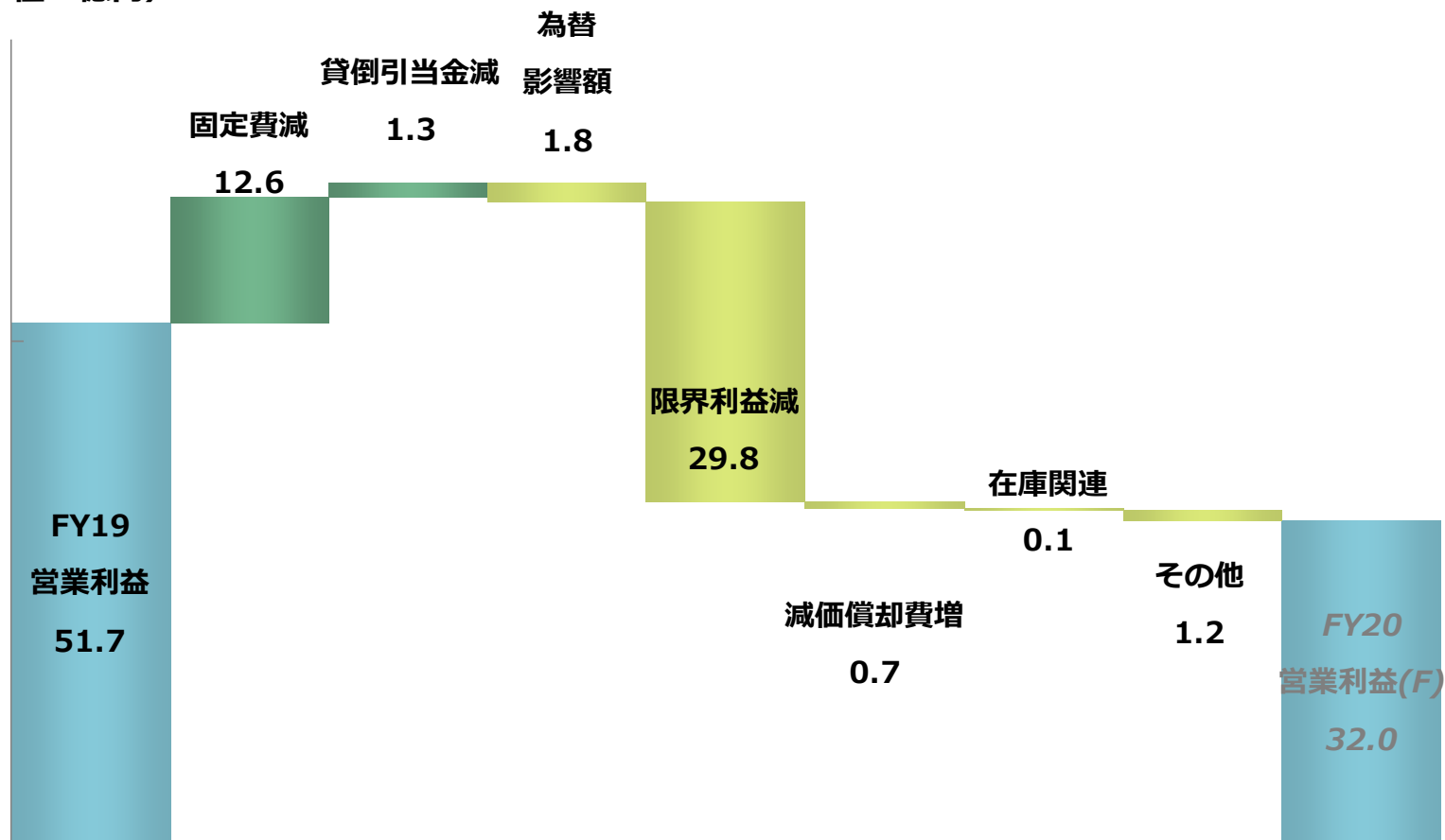
1. 2020年12月期業績予想

(単位：百万円)	FY19	FY20 (予想)			
			内訳		前期比
売上高	36,402		30,000	1H	
		2H(F)		14,485	
営業利益	5,175	3,200	1H	2,063	▲ 1,975 / ▲ 38.2 %
			2H(F)	1,136	
(売上高営業利益率)	14.2%	10.7%			
経常利益	5,207	3,200	1H	2,105	▲ 2,007 / ▲ 38.6 %
			2H(F)	1,094	
(売上高経常利益率)	14.3%	10.7%			
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	2,944	2,200	1H	1,461	▲ 744 / ▲ 25.3 %
			2H(F)	738	
1株当たり当期 (四半期) 純利益	140円40銭	104円90銭	1H	69円69銭	
			2H(F)	35円21銭	
為替レート		(2H想定為替レート)			
	109.1円/\$	105円/\$			
	122.1円/€	115円/€			
	15.8円/人民幣元	15.0円/人民幣元			

2. 営業利益増減要因 (2019年12月期 vs 2020年12月期)

✓ 固定費大幅削減も、売上減による限界利益減少カバーできず▲38.2%の減益

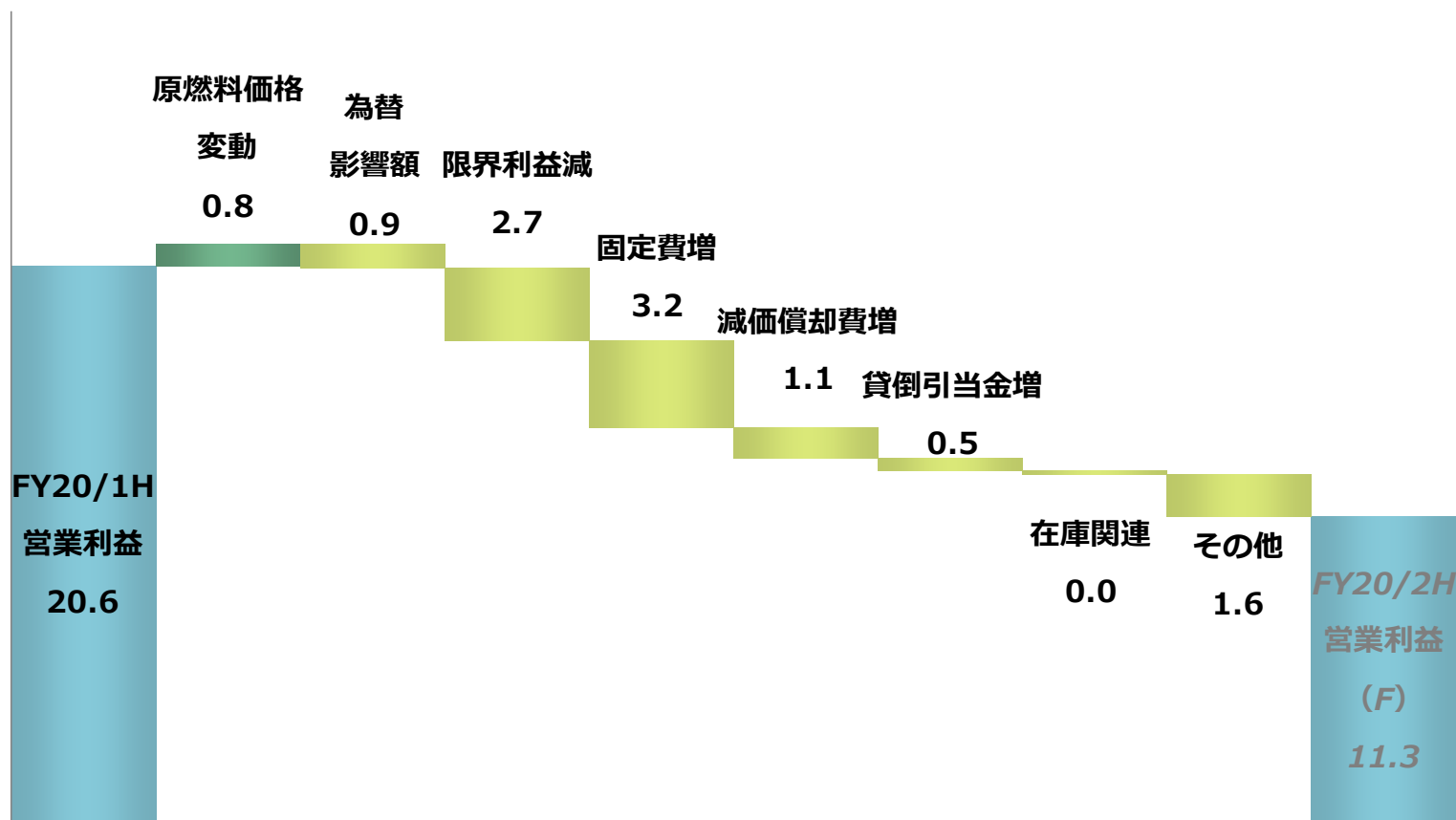
(単位：億円)



2. 営業利益増減要因 (2020年12月期上期 vs 下期)

✓ 売上減による限界利益減少と人件費をはじめとする固定費増に
減価償却費負担も加わり上期半減レベルに

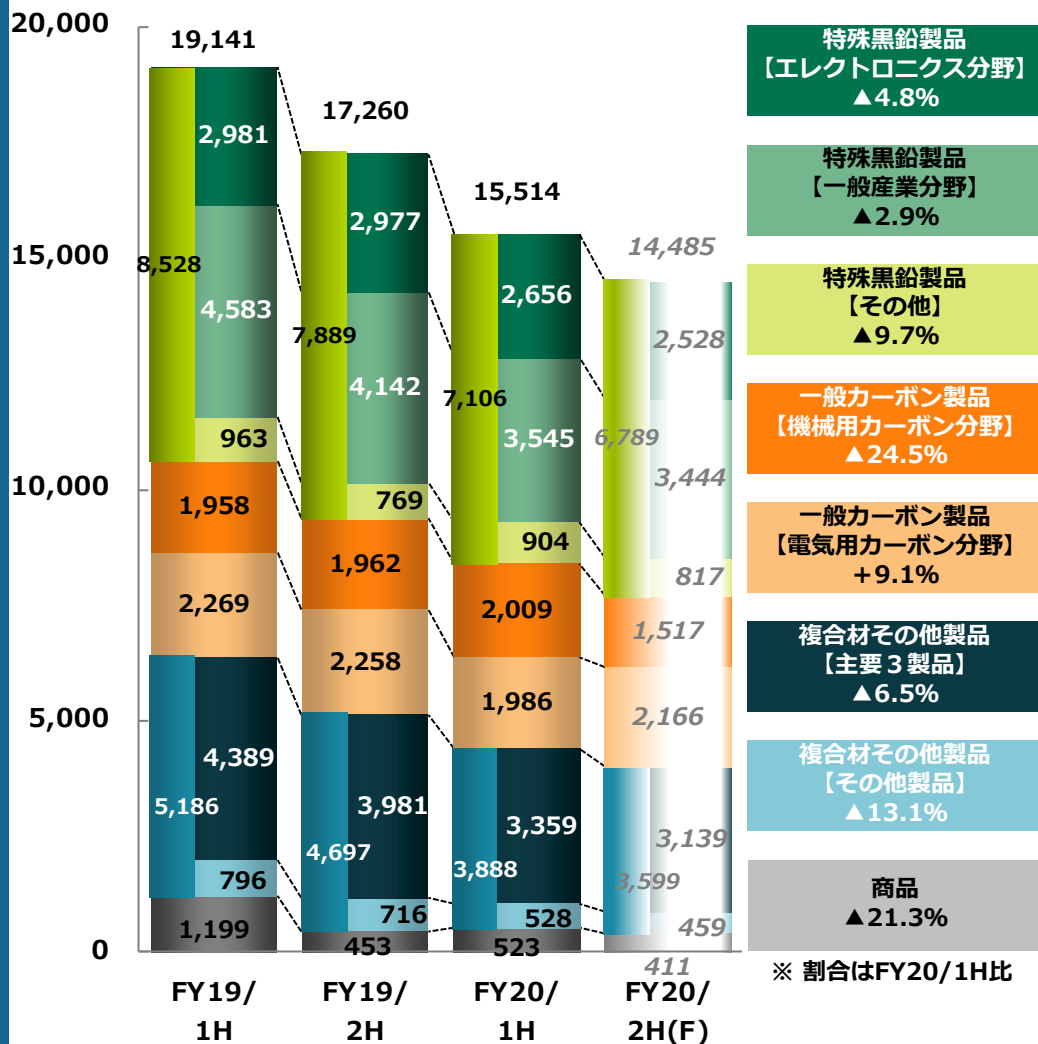
(単位：億円)



3. 製品・分野別/地域別売上高

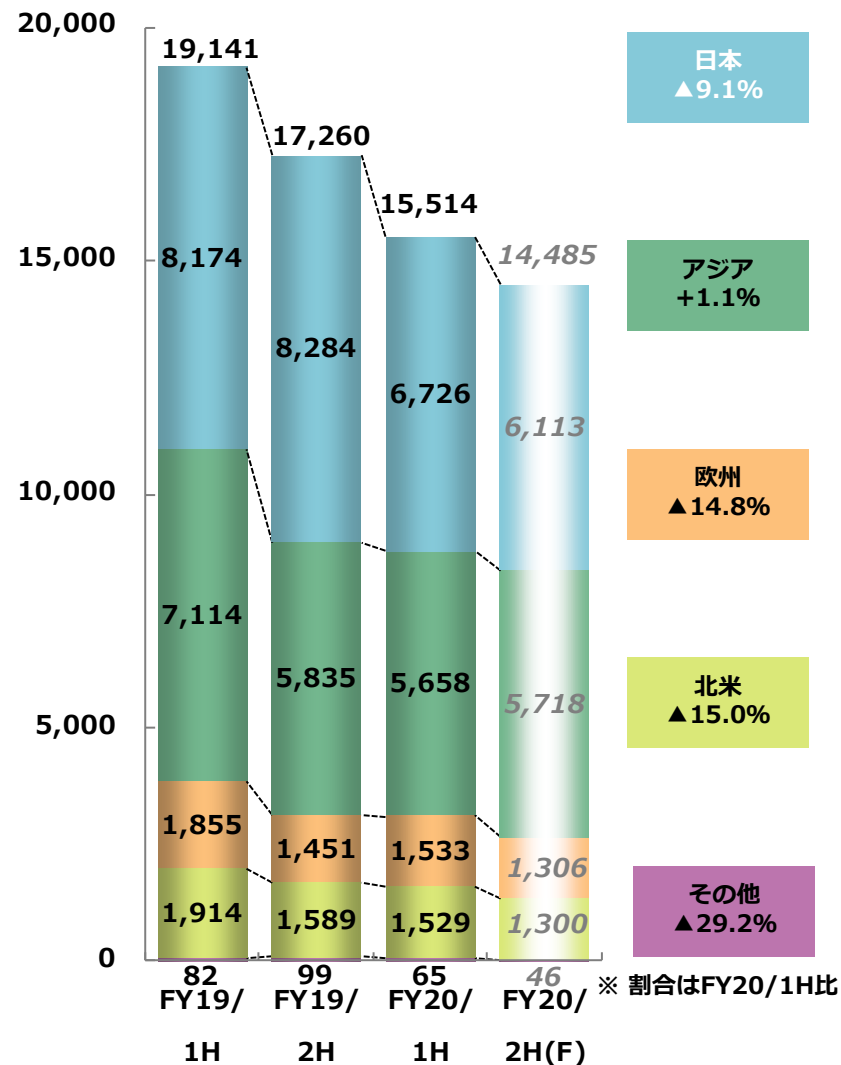
<製品・分野別売上高>

(単位：百万円)



<地域別売上高>

(単位：百万円)

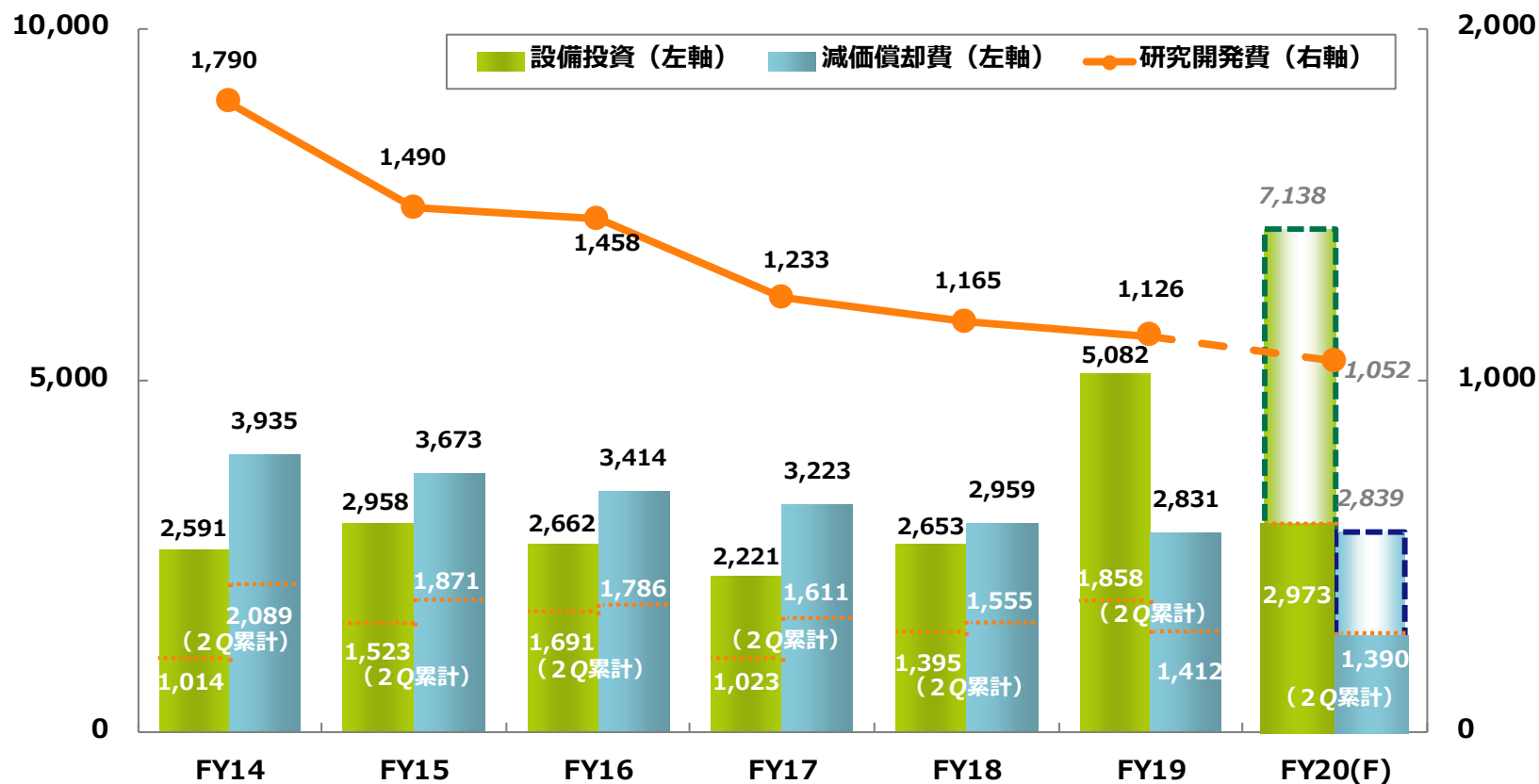


4. 設備投資・減価償却費・研究開発費

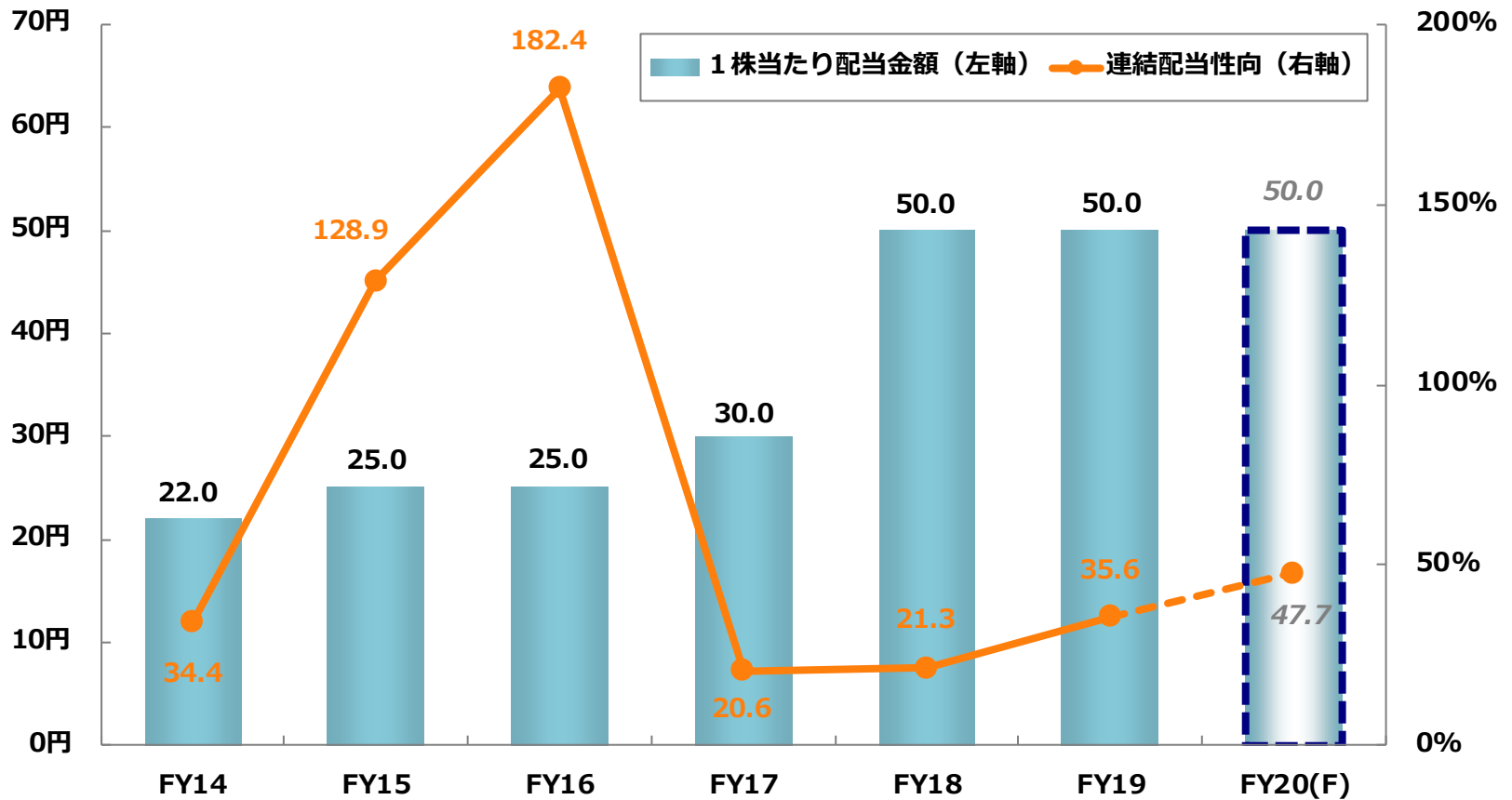
✓ 設備投資は前期期ズレ分（約20億円）あるも、今期は環境も踏まえ絞り込み

(単位：百万円)

(単位：百万円)



✓ FY20は減益ながらも前期並みの配当を堅持



事業の展望

✓2Q以降、新型コロナウイルス感染症の影響鮮明に

→2Q末の受注残高は大幅に減少し、今期中は厳しい状況が継続
一部では価格プレッシャーも顕在化

✓対面産業（エレクトロニクス・輸送機器・再生可能エネルギーetc）の
本格回復には時間を要する見込み

→FY2021の業績回復も限定的

✓海外の需要は緩やかに回復の見込みも、エリア毎に強弱あり

→中国の顧客稼働は比較的堅調、欧米・東南アジアは低調
足元では徐々に引合いもに入りつつある

✓中計については基本的な方向性は変わらないが、売上目標500億円の達成時期
（当初計画2022年）は後ズレになる見込み。

→中期的な見通しつき次第、公表予定

2. コロナ禍における生産の方向性

✓ 「不況下における収益の最大化」を至上命題に、以下取組みを実施

① 不急の設備投資の延期、投資額の絞り込み（期初計画比▲2割）

- ・ 高付加価値分野など優先度の高い投資は当初計画どおり実行（SiCコーティング強化・高純度能力増強etc）

② 生産性向上の取組み

- ・ 技術研鑽・革新による不良率の低減
- ・ グローバルでの品質管理体制強化
→ 本体からの加工指導・装置メンテナンス指導を充実
- ・ 活人化活動の推進
→ 効率UPで発生する余力は繁忙部署に配分 限られたリソースで最大限のパフォーマンスを発揮

③ 製造コストの一段の絞り込み

- ・ グローバルでの最適調達を強化

技術開発戦略のもと、10年後のカーボン材料のクオリティリーダーを目指し
素材原料まで立ち返った基礎開発とプロセス開発を実行

開発機能の強化（2020年9月予定）

- ✓生産部門傘下の技術部隊を開発部門に統合し、資源の最適配置を行い、
全社で効果的かつ効率的な開発を推進
- ✓カーボンブラシへのリソース配分強化

《直近の研究開発事例》

▶自動車用途向け研究開発

機械用カーボン

新たな製法・製造プロセスを確立し
自動車用途での採用を目指す。

▶工業炉向け材料の機能向上

C/Cコンポジット製品

金属等のオイルクエンチ（油冷）による油の染み込みを抑え、油煙の発生を防止。
海外での展開も視野に、新用途も開拓中。

東洋炭素は 顧客に寄り添った技術開発で 社会課題の解決に貢献します



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 東洋炭素はSDGs達成の貢献を目指します。

エレクトロニクス

- 【半導体】結晶成長用部材
ウェハー処理用部材
- 【電子部品】電子部品製造用治具



エネルギー

- 【発電】発電用アース用ブラシ
太陽光発電製造用部材
次世代原子力発電炉心材
- 【燃料電池】触媒担体



モビリティ

- 【電車】パンタグラフ用すり板
- 【航空機】エンジンパーツ製造
(放電加工電極・熱処理用治具)
- 【自動車】燃料ポンプ用カーボンブラシ
ガスケット



社会インフラ

- 【通信】光ファイバー製造用部材
ケーブル製造用部材
- 【一般産業用】バックシン
シールリング軸受



ライフサイエンス

- 【医療】CT装置ターゲット材
分析カラム充填材
- 【家電】LED製造用部材
クリーナー用カーボンブラシ
コンプレッサー用部品



TOYO TANSO

Inspiration for Innovation

(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

〈お問合せ先〉

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL : 06-6472-5811(代)

E-mail : ir@toyotanso.co.jp